

1, 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3474900440
法人名	有限会社 ウェルネス・プランニング
事業所名	ウェルネス東城
所在地	庄原市東城町川東1360-1 (電話) 08477-3-0951
評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	福山市三吉町南一丁目11-31-201
訪問調査日	平成 20 年 4 月 9 日

【情報提供票より】(20 年 12 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 12 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 7 人 非常勤 11 人 常勤換算 12.7 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り 1 階建ての 階 ~ 1 階部分
------	---------------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45~55千 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (八百円以上か)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,167 円	

(4)利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	83.3 歳	最低 71 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	東城病院・生熊歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】 作成日 平成20年5月8日

事業所は交通の便もよく、商業地が近くにあり利用者が過ごしやすい環境にある。ケアについては基本は利用者を大切にすることとし、職員本位にならないよう利用者の希望を重視したケアに取り組んでいる。職員は日常の支援の中で活動の場が広がるよう心がけ、外出も積極的にしたり、出入りが自由である。そして利用者にできるだけ身体を動かしてもらえよう、毎朝のラジオ体操やフーセンバレー等実施し身体機能の維持に努めている。あらゆることで試行錯誤しながら地域に根付いた事業所となるよう努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価について真摯に受け止められ、改善に努力している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は日ごろの取り組み状況について、目的意識を持って職員が気づきを出し合い、管理者がまとめている。外部評価は意義を理解し改善につなげるよう重点的にとり組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回会議を開催している。自己評価や外部評価への取り組み状況の報告も行なっている。情報交換にとどまらず積み上げてきた支援に関する知識や実践を地域に向けて発信していける場とし、地域密着型サービスが真に地域と支えあう関係を構築されることに努力している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族からの意見や要望はほとんど口頭で言われる。それについて職員は申し送りノートに記録し管理者が目を通している。問題点についてはリーダー会議で報告し、解決に向けて話し合いをして運営に反映している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として自覚し、月1回お話しボランティアの訪問や散歩時の声かけ、夕涼み会やクリスマス会等に地域の方に来てもらい、徐々に地域に溶け込む努力をしている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念はあるが、地域密着型としての理念がもり込まれていない。	○	地域密着型サービスの意義を職員間で話し合い地域との関係を強化した具体的な理念の作成が望まれる。
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の勉強会、毎日の朝礼を通して理念について職員間で共有が図られている。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月1回お話しボランティアの訪問や散歩時の声かけ、夕涼み会やクリスマス会等に地域の方に来てもらい、徐々に地域に溶け込む努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は目的意識を持って職員が気づきを出し合い、管理者がまとめている。外部評価は意義を理解し改善につなげるよう重点的に取り組んでいる。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催している。自己評価や外部評価への取り組み状況の報告も行なっている。議事録も適切に整理保管されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事例に基づき、なにかあれば支所に出向き相談している。担当者との連携が図られる工夫をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回通信を送付し暮らしぶりや体調等を報告している。特変の場合はその都度連絡している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からはほとんど口頭で言われる。それについて職員は申し送りノートに記録し管理者が目を通して。問題点についてはリーダー会議で報告し、解決に向けて話し合いをして運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動はあまりない。あった場合には利用者に配慮した対応に心掛けるように気をつけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回内部研修を実施している。積極的に外部研修が受けられる体制ができている。研修内容について内部研修し職員間で周知している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が同業者のところへ見学に行っている。職員を含め相互訪問の要望があるが実現されていない。	○	相互見学等の実施を通してケアの質の向上に役立てて行かれる取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	お試し利用の希望はない。事前面接し本人や家族の意向を聞きながら理解された上で利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごして行くなかで利用者の経験を基に学びお互いに支え合う関係作りに努力している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フエイシートの情報を基に把握に努めている。自分の思いや希望を表現しづらい方は態度や表情で察知し、その人の好みに応じた暮らしができるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネが介護計画をたて、各担当者の意見を聞き計画に反映している。出来あがったものについて家族に見てもらい意見も聞きながら了解を得られ、作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月毎見直しを行なっている。急変があった場合はその都度見直しをし、職員は申し送りノートで把握し周知している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	町内の病院の通院、リハビリの支援は事業所で行なっている。外出、外泊の支援も本人や家族の希望を汲み取った支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	重度化した利用者には毎日でも往診の支援がある。夜間も連絡でき、安心できる体制作りができています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に本人や家族から希望を聞いている。医師、本人、家族、職員とも連携をとり意思の統一を図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報使用同意書を作成し取り扱いに注意をしている。プライバシーに注意をした言葉掛けを実行している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調にも配慮し、利用者個々の出来ることや、充実感が持てる日々が過ごせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事も個々の状態に合わせて介助の支援もある。出来る方には片付けを手伝ってもらったりして持てる力を充分発揮してもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2～3回を目指して支援している。拒否の強い方に対しては職員が色々な方法で入浴してもらえるよう努力している。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ケアプランに基づいて役割、楽しみごとを見出されるよう支援している。畑仕事、散歩、洗濯物たたみ、食事の下ごしらえ等メリハリのついた生活ができるよう努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ショッピングに出かけたり、ホームの近所を散歩したり、利用者の気分に合わせた支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの実践をしている。万一の時に備えて、警察署と消防署との交流に取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災の訓練をし利用者も含めた避難訓練の実践をしている。。避難器具の点検もしている。	○	地震やあらゆる災害に対する意識を深め、避難場所の周知徹底を図り、地域住民の理解や協力を得ながらの定期的な避難訓練が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>病状により管理が必要な方については、量で加減されている。個人の状態に合わせ食べやすい工夫がされていた。バランスにも配慮し栄養摂取、水分摂取量は記録をとっている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>木造建築で落ち着いた生活の出来る共有空間であり、季節感あふれる自然の植物があたり一面に見渡せるゆったりした雰囲気だった。不快な音も臭いもなかった。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の好みに合わせベッドと畳の2種類の居室がある。使い慣れた品が持ちこまれていて、居心地のよい生活が送られている様子だった。</p>		

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ウェルネス東城 (西ユニット)

評価年月日 2008年 4月 9日

記入年月日 2008年 1月 18日

記入者 代表/管理者 氏名 桑原 延子

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりの尊厳を大切に、認知障害・行動障害を補い、地域での慣れ親しんだ生活様態が守られ、自信を取り戻すような穏やかな笑顔の多い暮らしを目指した介護に努めたい。	地域密着型介護サービスとしての新たな体制（職員配置等）への取り組みが不十分で、地域ニーズに応えられる体制が急がれる。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	すべての職員は、採用時に法令や運営規程を学習・理解しており、主要事項については、ミーティングなどの機会に課題の理解を図るよう、また、日々の介護の中での課題も共通理解に取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	開所以来、広告・啓発を行うほか、地域関連機関・施設への訪問挨拶などで地域への周知を図り、また、利用関係家族に対しては、入居案内書、運営規程等の開示などで理解を求めている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者や職員は、ホームが地域の方々に支えられていることをよく理解しており、近隣の方がたへの挨拶は勿論、利用者を伴っての通院や買い物の途次での会話、イベントへの参加見学等、融和に努めている。	ご近所との日常生活面での関係が薄く、門戸は開いているものの地域の方々からの来訪は少ない。関係作りを進めたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭やお祭りなど、地域の催し物、保育園・小学校の運動会などへは積極的に参加させてもらうよう働きかけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>開設4年目で事業所としての実績経験が浅く、職員等の資質向上には努めているものの、地域貢献へは十分取り組めていない。</p>		<p>地域集落からケアマネージャー等有資格職員の派遣要請があるが、これらの活動を拡大して行きたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価については成案について職員での検討会を行い、外部評価については、課題とされた評価の改善検討を行った。</p>		<p>課題の改善を図っているが、すべてが満足のいく形にはならず、可能なところから進めている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での検討課題や懸案事項については、改善計画や実施経過を書面で報告している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所として、行政の許可・届出の必要な事項が多く、その都度、担当係官の指導をいただくなど、積極的に門戸を叩いている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者や職員は、基礎知識として制度の認識は持っているが、幸い該当するような事例に出会うことがなく、知識を深めていない。</p>		<p>機会を捉え、研修の機会を持ちたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者や職員は、何が虐待に当たるかを各種資料から学び、人権尊重、プライバシー保護をふくめ、尊厳を守るよう注意を喚起している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結・解約に際しては、利用者・家族の不安や疑問を取り除くよう十分な説明を行い、納得を得るように努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理の窓口も設けており、年三回のイベント、誕生日会には家族の来訪をいただいて、ご意見を聞く機会を設けている。 当事業所では家族の来訪が頻繁で、その際、気付いたことを気軽に話していただくので、素早い対応ができる。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の家族への連絡は、利用料の請求時に主要な生活状況の報告を行うほか、来訪時にケース記録や預かり金出納簿を開示して、確認をいただいている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>上記13, 14項のように、気軽に意見や苦情を言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。 意見・要望などはミーティングなどを通して、改善に反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の勤務交代での懸案事項の引継ぎやミーティングのほか、月1回の定例運営検討会議では、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。</p>		<p>殆んどの職員がローテーション勤務のため、必ずしも全職員への意思疎通・共通理解ができたといえない場合がある。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>以前から続けていた家庭生活の延長線上での生活が、できるだけ可能なように、食事、入浴、就寝などの時間を、一人ひとりが柔軟にとれるよう職員が対応している。</p>		<p>現在まで特に勤務体制まで工夫しなければならない利用者はいない。今後重篤な利用者が生じた場合は、対応する。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>小規模施設であるため、限られた職員数で皆顔馴染みであるが、時間帯ごとに馴染みの職員が居ないことのないように、勤務割に配慮している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県又は市、社会福祉団体が開催する研修会へは、順次職員を参加させ、その研修結果はミーティングの際などに報告させ、他の研修に参加していない職員の知識向上にも努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会、シルバーサービス振興会、ケアマネージャー連絡協議会等々に加入しており、団体での交流を通じて情報をいただき、サービスの質の向上に役立てている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の業務上の悩み・ストレス等は、悩みの聞き取り、職員相互の親睦・慰めあい、上司への相談などを通じて解消してゆきたい。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、頻繁に現場に来て、入居者や職員との交流を深めるほか、地域交流にも意を用い、職員が意欲を持って働けるような環境作りに努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた場合は、相談に至るまでの苦労や不安、求めていることなどを詳しく聴取し、十分な説明で納得してもらうよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記と同様、詳しい事情聴取と十分な説明の上で、種々の介護サービスを比較検討できる中での選択ができるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの家族生活の経過の中で、困ったこと、こうありたいという希望を的確に受け止め、必要なサービスにつなげるよう努めている。 場合によっては、包括支援センターへの照会、他事業所への照会なども行って、問題解消に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人又は家族の納得のいくように、管理者等が家庭を訪問又は来所いただき、グループホームの雰囲気を理解し、馴染んでいただいた上での利用をすすめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活者であることを深く認識し、家族同様に支えあう関係での話し相手、手助け、奥深い知識の享受など、四季折々の行事なども取り入れた情緒豊かな日常生活を心掛けている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対しても、上記同様の関係を重んじ、密接な情報交換などを通じて、利用者の安心を醸成するよう心掛けている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	当グループホームでは、家族の来訪が頻繁であるが、年3～4回の事業所でのイベントや誕生日会など、積極的に家族の来訪を求めて家族の絆を深めることに努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記家族との関係同様、出向くことは困難であるが、友人・知人の来訪、手紙、電話等要望があれば自由に利用できるように取り計らっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲良くなれる性格や境遇などの似通った利用者同士の関係を見定め、一緒に過ごす時間を多く持てるように働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用契約が終了しても、1～2年の間は、時折訪問あるいは電話をするなどして、その後の安否を確認するようにしている。		
．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用となっても、常にどのように暮らすのが最良なのかを言葉や表情から汲み取り、折にふれ家族を交えて話し合っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握は、サービス提供に際して重要な情報であり、家族は勿論、友人・知人からもそれとなく伝えてもらうように努めている。なお、プライバシー保護については留意している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムをよく把握し、出来る事を見出して意欲的に生活できる環境作りに努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	34項、35項の情報など、又はフェイスシートを基にした介護計画案を家族にも提示し、それぞれの意見を反映した介護計画書にするよう努めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを行うほか、身体・環境の大きな変化が生じた際は、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や介護の記録は、それぞれ個々人のケースファイルに保存し、担当職員が交代しても経過が把握できる。また、毎日の朝礼でも引継ぎで情報の共有に心掛けている。		
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所では、担当有資格職員や介護事業実績が不足で、未だ通所、ショートステイの取り組みが出来ていない。		地域ニーズに応えるために、早急に体制が整えられるように努力したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回程度は関係機関・団体へご挨拶に行くなど、関係作りや理解をいただく環境作りを行っている。今日まで事例はないが、必要が生じた場合は、協力がいただけると思っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の特別養護老人ホームや老人保健施設・病院などの情報交換・交流に努め、ボランティア団体への働きかけも行っている。		現在まで他のサービスを利用した実績はない。そうした事態に常に十分な備えをしておきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターを含む市社会福祉課には常に助言・支援をいただいている。		運営推進会議には、市行政は監督官庁であることから、委員に加わっていただけていない。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所との提携医療機関があり、おおくの場合そちらで受診しているが、従前からのかかりつけ医がある場合は、そちらを優先して受診するように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	通常は提携医療機関での受診であるが、従前から受診歴のある方、重度の場合や異例の症状が出た場合は、遠方となるが脳神経科の診療所まで行って受診する。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を 配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間は、介護職員の通報や記録をもとに、確実な連携を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐために医師と相談し、ホーム内での対応可能な時点でなるべく早く退院できるよう、お話をする。 入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、管理者や職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状況などを把握して、退院支援に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた話し合いの中で、家族に納得してもらえる方針を全員で共有して居ることが必要だが、該当に近い利用者があるものの未だ取り組みが出来ていない。		医師、介護支援センター、ケアマネージャーなどでマニュアルを作成し、その方針を家族と協議のうえ、利用者の尊厳を守りながら納得の得られる介護対応・支援を行うよう検討する。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記に同じ、未だ事例がなく、今から検討・準備を行いたい。		上記に同じ。検討する。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時においては、32項に記述したとおり、アセスメント、ケアプランや支援状況等の資料を提供し、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように努めている。 なお、その際、プライバシーの保護には万全の配慮をする。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は、利用者一人ひとりの人柄や状態を理解し、能力を発揮し、安心して生活できるよう支援している。自尊心を失うことのないよう、さり気ない介護を行っている。勉強会やミーティングの折に、対応の徹底を図っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の仕種や表情に合わせて声をかけ、意志表示が困難な方には、表情を読み取ったり手振りなどで、些細なことでも本人が決める場面をつくっている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個々に合わせた支援を行っている。買い物や散歩など、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>朝の着替えは、基本的に利用者の意思で決めており、見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。利用者の個性あるおしゃれを支援している。理容については、1ヶ月半に1回のペースで、当ホームに理容師さんを招き、散髪をしていただいている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は、利用者と職員と一緒に食べることを原則にしており、それぞれサポートが必要な方の隣へさりげなく座席を配慮し、緊張させない介護を、心掛けている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は一人ひとりの嗜好品を理解しており、本人の様子や時間をみながら、それらを楽しめるように支援している。たばこについては、職員が預かり、本人の希望にそって他の利用者の迷惑にならないよう、換気のよい場所で吸えるよう配慮している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	歩行能力の維持ないし向上を図り、トイレ誘導や排泄パターンの把握により、紙パンツ等の使用軽減につながる工夫をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望にあわせ、シャワー浴の方、浴槽へ入られる方、全身を洗う介助の必要な方、洗髪や背中だけの介助の方、入浴の嫌いな方もおられ、それぞれに気持ち良く入浴していただけるように支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう配慮しながら、1日の生活リズムづくりを通じて、睡眠時間の確保を図っている。度々の目覚めには、飲物を勧めたりお話ししてリラックスしていただいて、入眠を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者、一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。利用者の経験や知恵を借りて、漬物をつけたり、干し柿作りなどしている。りんご狩りや花見などの楽しみごとを、利用者と相談しながら決めている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者間で金銭トラブルを避ける為、各利用者の小口現金をホームでお預かりし、散歩の途中や買い物の目的で、外出した場合に随時機会を作って、買い物の楽しみを味わってもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「故郷に帰りたい」などの利用者の思いが出されたときは、実現するための方策を職員同士で検討し、家族に伝え支援につなげている。		「故郷に帰りたい」以外での、本人が行きたいと思う遠くの場所への外出については、予め計画を立て、職員の勤務を調整する等しながら徐々にすすめていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことの出来る方は限られているが、要望が出たときは直ちに対応し支援している。電話についても特に制限はせず受発信に応じている。コードレスホンで居室からの通話も可能である。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、親戚、知人、友人等も家を訪れるような気軽で来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間は、決めておらず自由に都合のいい時間帯に、訪ねて来ていただけるような配慮をしている。 他の利用者に気兼ねなく過ごして頂くよう、訪問者用スペースを整え、居心地のよい空間づくりを心がけてい		
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の採用に当たって、利用者の尊厳を守ることを基本に指導しており、介護の基本マニュアルにも注意事項として掲げ、拘束や虐待のない温もりの感じられる介護を目指している。 やむを得ず拘束を必要とする場合は、利用者の人権を第一に、家族への説明と理解を得たうえで、最小限の処置を行うこと		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物構造も明るく開放的雰囲気で、ドアもできるだけ鍵の無いものにし、出入り口はモニターつきのドアロックにして、心理的圧迫感を与えない工夫をしている。利用者が外へ出るような気配を察知したら、すぐ職員が付き添うようにしている。近隣へ理解をいただくとともに、万一の無断外出に備えて、警察、消防へも支援をお願い		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行い、目配りしながら利用者全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、数時間ごとに利用者の様子を確認し、起きられた場合にすぐ対応できるように、居場所を工夫している。 日中も夜間もフロアにて、職員が見守っていて、24時間		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り扱いに注意を要する薬品、洗剤や刃物等の保管については、利用者の行動範囲から遠ざけ、他の場所に放置しないよう管理に気を付けている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態を把握し予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。(誤嚥のリスクの高い利用者の食事支援や服薬の方法、タバコを吸う方への気配りや防火素材の活用等)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態の対応は、介護職員の基礎知識として学習し、業務マニュアルにも示している。消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施して職員が対応できるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と共に、避難訓練を行っている。消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。		地域の協力体制については、自治会にお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出により、リスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしていることをご家族に見てもらったり、具体的に説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。状況により医療受診につなげている。体調や些細な表情の変化も見逃さないよう早期発見に取り組んでおり、気づいたことがあれば、直ちに管理者に報告し職員間で共有し対応にあたる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーをケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているか職員が確認している。薬の処方方や用量が変更されたり、状態変化がみられるときは、いつもより詳細に記録をとるようにし、職員間の連絡を		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者一人ひとりの毎日の排便・排尿をチェックしており、食事や飲み物などの工夫、運動への勧誘などで対処している。(繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。)		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、入れ歯の手入れ、うがいなどは欠かさぬように誘導又は介助し、口腔内の清潔保持時に留意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録して、職員が情報を共有している。 メニューも毎日記録して、栄養バランスに気をつけている。 利用者の健康状態にあわせて、別メニューになることもある。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホーム内で起こり得る感染症について、全職員で勉強して予防、対策に努める。また早期発見・早期対応にも努めている。 利用者および家族に同意いただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。 ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用、掃除		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は、その都度漂白し清潔に心がけている。 冷蔵庫も点検・掃除をして、食材の残りは鮮度や状態を確認して、処分したり冷凍したりしている。 食材は、新鮮で安全な物を使用する為、毎日購入している。 調理器具、台所水回りの清潔、衛生を保つよう、職員同士気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉から玄関に至るアプローチには植木を配し、プランタには花を植え並べて穏やかな雰囲気を作り、敷地外構は低い鉄線格子堀にしてあり、周囲の自然景観が見通せるよう工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が純木造で、床、建具、調度品にも、自宅と同様の木の温もりや落ち着いた優しさを感じさせる雰囲気に作り、台所から聞こえる音、心地よい音楽、季節季節の飲み物や食べ物を意識的に採り入れる工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づく 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには6人掛けのテーブル2箇所、テレビ前には5人掛けソファを配し、別に4.5畳の和室も設けており、数グループに分かれて、自由な過ごし方ができる居場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は10㎡(6畳)で、整理ダンス以外は個人で自由に調度品や装飾を施していただくことにしており、家庭で使い馴染んでいた部屋を再現し、違和感を感じさせない安心のある生活を追及している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	体力的にも弱い方々の生活の場であることに留意し、床暖房のほか冷房、暖房等の温度、湿度に気を配り、少しの変化にも注意をして調節に努めている。 冬季には、加湿器も備えている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの共用部分には手摺を、ドアの大部分は引き戸にして開口部を大きくとり、浴室には全身シャワーと床暖を、台所にはIHヒーター、自動食器洗い機を装備するなど、ADL低下にも対応できるよう配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わり、混乱や失敗が生じた場合は、その都度、職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム建物に隣接して、屋根つき物干し場、物置、菜園や園芸用の畑を確保しており、日向ぼっこや軽作業、野菜や花卉の栽培などで変化のある日課と生き甲斐づくりを図っている。 玄関先にベンチを置いて、利用者が涼んだり、雑談できるような工夫をしている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設以来4年を経過し、利用者・家族に喜んでいただける介護サービスが安定的に提供できる体制が育ってきたと考えており、地域の皆さんにも、施設の存在を認知していただけるようになった。何よりも、従前の家庭での生活様態を出来るだけ忠実に再現できて、職員とともに、穏やかな気持ちで、安心して過ごしていただける環境作りに努めている。

介護サービス自己評価基準

認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム ウェルネス東城 (東ユニット)

評価年月日 2008年 4月 9日

記入年月日 2008年 1月 18日

記入者 代表/管理者 氏名 河村 早苗

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりの尊厳を大切に、認知障害・行動障害を補い、地域での慣れ親しんだ生活様態が守られ、自信を取り戻すような穏やかな笑顔の多い暮らしを目指した介護に努めたい。		地域密着型介護サービスとしての新たな体制（職員配置等）への取り組みが不十分で、地域ニーズに応えられる体制が急がれる。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	すべての職員は、採用時に法令や運営規程を学習・理解しており、主要事項については、ミーティングなどの機会に課題の理解を図るよう、また、日々の介護の中での課題も共通理解に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	開所以来、広告・啓発を行うほか、地域関連機関・施設への訪問挨拶などで地域への周知を図り、また、利用関係家族に対しては、入居案内書、運営規程等の開示などで理解を求めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者や職員は、ホームが地域の方々に支えられていることをよく理解しており、近隣の方がたへの挨拶は勿論、利用者を伴っての通院や買い物の途次での会話、イベントへの参加見学等、融和に努めている。		ご近所との日常生活面での関係が薄く、門戸は開いているものの地域の方々からの来訪は少ない。関係作りを進めたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭やお祭りなど、地域の催し物、保育園・小学校の運動会などへは積極的に参加させてもらうよう働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>開設4年目で事業所としての実績経験が浅く、職員等の資質向上には努めているものの、地域貢献へは十分取り組めていない。</p>		<p>地域集落からケアマネージャー等有資格職員の派遣要請があるが、これらの活動を拡大して行きたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価については成案について職員での検討会を行い、外部評価については、課題とされた評価の改善検討を行った。</p>		<p>課題の改善を図っているが、すべてが満足のいく形にはならず、可能なところから進めている。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での検討課題や懸案事項については、改善計画や実施経過を書面で報告している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所として、行政の許可・届出の必要な事項が多く、その都度、担当係官の指導をいただくなど、積極的に門戸を叩いている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者や職員は、基礎知識として制度の認識は持っているが、幸い該当するような事例に出会うことがなく、知識を深めていない。</p>		<p>機会を捉え、研修の機会を持ちたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者や職員は、何が虐待に当たるかを各種資料から学び、人権尊重、プライバシー保護をふくめ、尊厳を守るよう注意を喚起している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結・解約に際しては、利用者・家族の不安や疑問を取り除くよう十分な説明を行い、納得を得るように努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情処理の窓口も設けており、年三回のイベント、誕生日会には家族の来訪をいただいて、ご意見を聞く機会を設けている。 当事業所では家族の来訪が頻繁で、その際、気付いたことを気軽に話していただくので、素早い対応ができる。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の家族への連絡は、利用料の請求時に主要な生活状況の報告を行うほか、来訪時にケース記録や預かり金出納簿を開示して、確認をいただいている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>上記13, 14項のように、気軽に意見や苦情を言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。 意見・要望などはミーティングなどを通して、改善に反映させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日々の勤務交代での懸案事項の引継ぎやミーティングのほか、月1回の定例運営検討会議では、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。</p>		<p>殆んどの職員がローテーション勤務のため、必ずしも全職員への意思疎通・共通理解ができたといえない場合がある。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>以前から続けていた家庭生活の延長線上での生活が、できるだけ可能なように、食事、入浴、就寝などの時間を、一人ひとりが柔軟にとれるよう職員が対応している。</p>		<p>現在まで特に勤務体制まで工夫しなければならない利用者はいない。今後重篤な利用者が生じた場合は、対応する。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>小規模施設であるため、限られた職員数で皆顔馴染みであるが、時間帯ごとに馴染みの職員が居ないことのないように、勤務割に配慮している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 . 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県又は市、社会福祉団体が開催する研修会へは、順次職員を参加させ、その研修結果はミーティングの際などに報告させ、他の研修に参加していない職員の知識向上にも努めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会、シルバーサービス振興会、ケアマネージャー連絡協議会等々に加入しており、団体での交流を通じて情報をいただき、サービスの質の向上に役立てている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の業務上の悩み・ストレス等は、悩みの聞き取り、職員相互の親睦・慰めあい、上司への相談などを通じて解消してゆきたい。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、頻繁に現場に来て、入居者や職員との交流を深めるほか、地域交流にも意を用い、職員が意欲を持って働けるような環境作りに努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 . 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けた場合は、相談に至るまでの苦労や不安、求めていることなどを詳しく聴取し、十分な説明で納得してもらうよう努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記と同様、詳しい事情聴取と十分な説明の上で、種々の介護サービスを比較検討できる中での選択ができるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの家族生活の経過の中で、困ったこと、こうありたいという希望を的確に受け止め、必要なサービスにつなげるよう努めている。 場合によっては、包括支援センターへの照会、他事業所への照会なども行って、問題解消に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人又は家族の納得のいくように、管理者等が家庭を訪問又は来所いただき、グループホームの雰囲気を理解し、馴染んでいただいた上での利用をすすめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共同生活者であることを深く認識し、家族同様に支えあう関係での話し相手、手助け、奥深い知識の享受など、四季折々の行事なども取り入れた情緒豊かな日常生活を心掛けている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対しても、上記同様の関係を重んじ、密接な情報交換などを通じて、利用者の安心を醸成するよう心掛けている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	当グループホームでは、家族の来訪が頻繁であるが、年3～4回の事業所でのイベントや誕生日会など、積極的に家族の来訪を求めて家族の絆を深めることに努めている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記家族との関係同様、出向くことは困難であるが、友人・知人の来訪、手紙、電話等要望があれば自由に利用できるように取り計らっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲良くなれる性格や境遇などの似通った利用者同士の関係を見定め、一緒に過ごす時間を多く持てるように働きかけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用契約が終了しても、1～2年の間は、時折訪問あるいは電話をするなどして、その後の安否を確認するようにしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用となっても、常にどのように暮らすのが最良なのかを言葉や表情から汲み取り、折にふれ家族を交えて話し合っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握は、サービス提供に際して重要な情報であり、家族は勿論、友人・知人からもそれとなく伝えてもらうように努めている。なお、プライバシー保護については留意している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムをよく把握し、出来る事を見出して意欲的に生活できる環境作りに努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	34項、35項の情報など、又はフェイスシートを基にした介護計画案を家族にも提示し、それぞれの意見を反映した介護計画書にするよう努めている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを行うほか、身体・環境の大きな変化が生じた際は、現状に即した新たな介護計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や介護の記録は、それぞれ個々人のケースファイルに保存し、担当職員が交代しても経過が把握できる。また、毎日の朝礼でも引継ぎで情報の共有に心掛けている。		
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当事業所では、担当有資格職員や介護事業実績が不足で、未だ通所、ショートステイの取り組みが出来ていない。		地域ニーズに応えるために、早急に体制が整えられるように努力したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回程度は関係機関・団体へご挨拶に行くなど、関係作りや理解をいただく環境作りを行っている。今日まで事例はないが、必要が生じた場合は、協力がいただけると思っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣の特別養護老人ホームや老人保健施設・病院などの情報交換・交流に努め、ボランティア団体への働きかけも行っている。		現在まで他のサービスを利用した実績はない。そうした事態に常に十分な備えをしておきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターを含む市社会福祉課には常に助言・支援をいただいている。		運営推進会議には、市行政は監督官庁であることから、委員に加わっていただけていない。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所との提携医療機関があり、おおくの場合そちらで受診しているが、従前からのかかりつけ医がある場合は、そちらを優先して受診するように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	通常は提携医療機関での受診であるが、従前から受診歴のある方、重度の場合や異例の症状が出た場合は、遠方となるが脳神経科の診療所まで行って受診する。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を 配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間は、介護職員の通報や記録をもとに、確実な連携を行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院によるダメージを極力防ぐために医師と相談し、ホーム内での対応可能な時点でなるべく早く退院できるよう、お話をする。 入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、管理者や職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状況などを把握して、退院支援に努めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた話し合いの中で、家族に納得してもらえぬ方針を全員で共有して居ることが必要だが、該当に近い利用者があるものの未だ取り組みが出来ていない。		医師、介護支援センター、ケアマネージャーなどでマニュアルを作成し、その方針を家族と協議のうえ、利用者の尊厳を守りながら納得の得られる介護対応・支援を行うよう検討する。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	上記に同じ、未だ事例がなく、今から検討・準備を行いたい。		上記に同じ。検討する。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時においては、32項に記述したとおり、アセスメント、ケアプランや支援状況等の資料を提供し、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように努めている。 なお、その際、プライバシーの保護には万全の配慮をする。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は、利用者一人ひとりの人柄や状態を理解し、能力を発揮し、安心して生活できるよう支援している。自尊心を失うことのないよう、さり気ない介護を行っている。勉強会やミーティングの折に、対応の徹底を図っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の仕種や表情に合わせて声をかけ、意志表示が困難な方には、表情を読み取ったり手振りなどで、些細なことでも本人が決める場面をつくっている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個々に合わせた支援を行っている。買い物や散歩など、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>朝の着替えは、基本的に利用者の意思で決めており、見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。利用者の個性あるおしゃれを支援している。理容については、1ヶ月半に1回のペースで、当ホームに理容師さんを招き、散髪をしていただいている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は、利用者と職員と一緒に食べることを原則にしており、それぞれサポートが必要な方の隣へさりげなく座席を配慮し、緊張させない介護を、心掛けている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>職員は一人ひとりの嗜好品を理解しており、本人の様子や時間をみながら、それらを楽しめるように支援している。たばこについては、職員が預かり、本人の希望にそって他の利用者の迷惑にならないよう、換気のよい場所で吸えるよう配慮している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	歩行能力の維持ないし向上を図り、トイレ誘導や排泄パターンの把握により、紙パンツ等の使用軽減につながる工夫をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望にあわせ、シャワー浴の方、浴槽へ入られる方、全身を洗う介助の必要な方、洗髪や背中だけの介助の方、入浴の嫌いな方もおられ、それぞれに気持ち良く入浴していただけるように支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう配慮しながら、1日の生活リズムづくりを通じて、睡眠時間の確保を図っている。度々の目覚めには、飲物を勧めたりお話ししてリラックスしていただいて、入眠を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者、一人ひとりの力を発揮してもらえよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。利用者の経験や知恵を借りて、漬物をつけたり、干し柿作りなどしている。りんご狩りや花見などの楽しみごとを、利用者と相談しながら決めている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者間で金銭トラブルを避ける為、各利用者の小口現金をホームでお預かりし、散歩の途中や買い物の目的で、外出した場合に随時機会を作って、買い物の楽しみを味わってもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるよう日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「故郷に帰りたい」などの利用者の思いが出されたときは、実現するための方策を職員同士で検討し、家族に伝え支援につなげている。		「故郷に帰りたい」以外での、本人が行きたいと思う遠くの場所への外出については、予め計画を立て、職員の勤務を調整する等しながら徐々にすすめていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことの出来る方は限られているが、要望が出たときは直ちに対応し支援している。電話についても特に制限はせず受発信に応じている。コードレスホンで居室からの通話も可能である。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、親戚、知人、友人等も家を訪れるような気軽で来やすい雰囲気作りを心がけている。訪問時間は、決めておらず自由に都合のいい時間帯に、訪ねて来ていただけるような配慮をしている。 他の利用者に気兼ねなく過ごして頂くよう、訪問者用スペースを整え、居心地のよい空間づくりを心がけてい		
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の採用に当たって、利用者の尊厳を守ることを基本に指導しており、介護の基本マニュアルにも注意事項として掲げ、拘束や虐待のない温もりの感じられる介護を目指している。 やむを得ず拘束を必要とする場合は、利用者の人権を第一に、家族への説明と理解を得たうえで、最小限の処置を行うこと		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物構造も明るく開放的雰囲気で、ドアもできるだけ鍵の無いものにし、出入り口はモニターつきのドアロックにして、心理的圧迫感を与えない工夫をしている。利用者が外へ出るような気配を察知したら、すぐ職員が付き添うようにしている。近隣へ理解をいただくとともに、万一の無断外出に備えて、警察、消防へも支援をお願い		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行い、目配りしながら利用者全員の状況を把握するよう努めている。夜間は、数時間ごとに利用者の様子を確認し、起きられた場合にすぐ対応できるように、居場所を工夫している。 日中も夜間もフロアにて、職員が見守っていて、24時間		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り扱いに注意を要する薬品、洗剤や刃物等の保管については、利用者の行動範囲から遠ざけ、他の場所に放置しないよう管理に気を付けている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の状態を把握し予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。(誤嚥のリスクの高い利用者の食事支援や服薬の方法、タバコを吸う方への気配りや防火素材の活用等)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態の対応は、介護職員の基礎知識として学習し、業務マニュアルにも示している。消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施して職員が対応できるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と共に、避難訓練を行っている。消防署の協力を経て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。		地域の協力体制については、自治会にお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出により、リスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしていることをご家族に見てもらったり、具体的に説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。状況により医療受診につなげている。体調や些細な表情の変化も見逃さないよう早期発見に取り組んでおり、気づいたことがあれば、直ちに管理者に報告し職員間で共有し対応にあたる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーをケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているか職員が確認している。薬の処方方や用量が変更されたり、状態変化がみられるときは、いつもより詳細に記録をとるようにし、職員間の連絡を		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者一人ひとりの毎日の排便・排尿をチェックしており、食事や飲み物などの工夫、運動への勧誘などで対処している。(繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。)		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、入れ歯の手入れ、うがいなどは欠かさぬように誘導又は介助し、口腔内の清潔保持時に留意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録して、職員が情報を共有している。 メニューも毎日記録して、栄養バランスに気をつけている。 利用者の健康状態にあわせて、別メニューになることもある。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホーム内で起こり得る感染症について、全職員で勉強して予防、対策に努める。また早期発見・早期対応にも努めている。 利用者および家族に同意いただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。 ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用、掃除		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は、その都度漂白し清潔に心がけている。 冷蔵庫も点検・掃除をして、食材の残りは鮮度や状態を確認して、処分したり冷凍したりしている。 食材は、新鮮で安全な物を使用する為、毎日購入している。 調理器具、台所水回りの清潔、衛生を保つよう、職員同士気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉から玄関に至るアプローチには植木を配し、プランタには花を植え並べて穏やかな雰囲気を作り、敷地外構は低い鉄線格子堀にしてあり、周囲の自然景観が見通せるよう工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が純木造で、床、建具、調度品にも、自宅と同様の木の温もりや落ち着いた優しさを感じさせる雰囲気に作り、台所から聞こえる音、心地よい音楽、季節季節の飲み物や食べ物を意識的に採り入れる工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づく 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには6人掛けのテーブル2箇所、テレビ前には5人掛けソファを配し、別に4.5畳の和室も設けており、数グループに分かれて、自由な過ごし方ができる居場所を確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は10㎡(6畳)で、整理ダンス以外は個人で自由に調度品や装飾を施していただくことにしており、家庭で使い馴染んでいた部屋を再現し、違和感を感じさせない安心のある生活を追及している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	体力的にも弱い方々の生活の場であることに留意し、床暖房のほか冷房、暖房等の温度、湿度に気を配り、少しの変化にも注意をして調節に努めている。 冬季には、加湿器も備えている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの共用部分には手摺を、ドアの大部分は引き戸にして開口部を大きくとり、浴室には全身シャワーと床暖を、台所にはIHヒーター、自動食器洗い機を装備するなど、ADL低下にも対応できるよう配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。状態が変わり、混乱や失敗が生じた場合は、その都度、職員一同で話し合い、本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム建物に隣接して、屋根つき物干し場、物置、菜園や園芸用の畑を確保しており、日向ぼっこや軽作業、野菜や花卉の栽培などで変化のある日課と生き甲斐づくりを図っている。 玄関先にベンチを置いて、利用者が涼んだり、雑談できるような工夫をしている。		

・サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設以来4年を経過し、利用者・家族に喜んでいただける介護サービスが安定的に提供できる体制が育ってきたと考えており、地域の皆さんにも、施設の存在を認知していただけるようになった。何よりも、従前の家庭での生活様態を出来るだけ忠実に再現できて、職員とともに、穏やかな気持ちで、安心して過ごしていただける環境作りに努めている。